



しずおか 県民児協だより

●第14号●

平成19年9月15日発行

〔題字：静岡県知事 石川嘉延 書〕

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内
電話054-254-5244 FAX054-251-7508

民生委員・児童委員 啓発運動の実施



(活動の様子)



島田市民生委員児童委員協議会

小澤 幸弘

私たち民生委員・児童委員は、現在168人の委員により住民の立場に立った地域福祉活動の推進を図っています。高齢者への虐待、悪質商法被害、孤独死、子どもへの虐待など、連日のように報道されていますが、地域社会における人間関係の希薄化や核家族化による住民同士の付き合いが少なくなっていることが大きな問題であると思います。

このような状況の中、私たち民生委員・児童委員の果たす役割は、ますます大きなものになっていくと考えます。

本年は、民生委員制度創設90周年記念事業テーマ「広げよう 地域に根ざした 思いやり」を進めるとともに、民生委員の啓発運動の実施を行いました。民生委員・児童委員は地域住民を支援するボランティアであり、皆さんの抱える問題について、皆さんの立場で親身に相談に乗ります。不登校、いじめ、育児、介護、障害等、相談内容の秘密は守りますので、御安心ください。

広報啓発活動としては、5月14日に声掛け運動や各小中学校前にて挨拶運動を実施、「広報しまだ7月号」では民生委員・児童委員の仕事を紹介し、全戸配布しました。また、7月12日に市内スパーの前でチラシ、ティッシュを配布しました。

本年11月には民生委員・児童委員の一斉改選があり、私たちは啓発運動に努力しています。

民生委員制度創設90周年記念 全国民生委員児童委員大会が盛大に開催されました。

期 日 平成19年7月5日(木)～7月6日(金)

場 所 日本武道館（東京都）他

参加者数 約5,300人

第1日の式典には、天皇皇后両陛下に御臨席をいただき、天皇陛下からおことばを賜りました。

記念講演

テーマ

人の心と体を育む『食育』
～大切なものを失った日本人～

講師 服部 幸應 氏
(学校法人服部学園服部栄養専門学校理事長・校長、医学博士)



会場の様子（日本武道館）

全体会

●民生委員制度創設90周年記念事業スローガン表彰

「広げよう 地域に根ざした 思いやり」

田中 正子 氏（大阪府）

●大会宣言、抛金贈呈 ほか

4つのテーマ別研修（第2日目）

- 1 対応困難な課題をもつ要援護者への支援のあり方と民児協の組織強化
～新しい活動強化方策の推進～
- 2 「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」の取り組み報告と今後の災害対応を学ぶ
- 3 支援を要する人々の人権と生活を護る民生委員・児童委員活動
～高齢者・障害者等への生活支援をすすめるために～
- 4 子どもや子育て家庭への支援をすすめる児童委員活動
～児童虐待への対応と安心できる子育て環境づくりをすすめるために～



テーマ別研修4



受付の様子

式典

天皇陛下のおことば

平成19年7月5日(木)(日本武道館)

本日、民生委員制度創設90周年を記念する全国民生委員児童委員大会が開催されることを、誠に喜ばしく思います。

本年は、大正6年笠井信一岡山県知事が、当時の県民の1割が悲惨な生活状態にあることを深く憂慮し、これらの人々の救済策として、濟世顧問制度を創設してからちょうど90周年になります。またこの制度がつくられた翌年には林市蔵大阪府知事が貧しい人々の生活状況の調査や救済に当たる方面委員制度を発足させました。この方面委員制度



は、昭和11年、全国的制度に発展し、戦後は民生委員制度として今日に受け継がれています。これらの制度が始められたころは福祉に対する社会の関心がまだ低く、恵まれない人々を救おうとした関係者の努力はいかばかりであったかと察せられます。

近年高齢化に伴う社会の変化によって、家族や地域社会の絆(きずな)が弱まり、社会から孤立した人々の増える中で、民生委員・児童委員の仕事は、ますます重要性を増してきています。さらに、地震や台風などの災害が発生した場合の対応のために、民生委員・児童委員の日ごろの努力の積み重ねが求められています。

現在、全国で22万人を超える民生委員・児童委員が、社会奉仕の精神をもって、助けを必要とする人々のために日夜尽力していることを、誠に心強く思います。どうか、今後とも、地域の人々の生活状態をきめ細かく把握し、地域の人々の心身の支えとなって、力を尽くされるよう願っております。

この記念大会が、全国の民生委員・児童委員が一層協力し合って国民の福祉の向上に努める契機となることを希望し、大会に寄せる言葉といたします。



大会宣言

次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、御報告いたします。



大会宣言を行う天野会長

本日、ここ日本武道館において開催する民生委員制度創設90周年記念 全国民生委員児童委員大会は、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、挙行することとなりました。

本年は、大正6年の岡山県における済世顧問制度の創設から数えて90年目にあたります。

私たちの先達は、方面委員として救護法制定促進運動を、また、民生委員・児童委員として世帯更生資金貸付制度の創設や心配ごと相談所運営を、さらに児童・家庭分野として、丈夫な子どもを育てる母親運動、心豊かな子どもを育てる運動、「地域の親子100人と知り合い、支え合おう」を推進するとともに、高齢者分野として、寝たきり高齢者の実態調査、孤独死高齢者ゼロ運動、在宅寝たきり高齢者の介護者実態調査、在宅認知症高齢者の介護者実態調査等を全国的に展開し、常に社会の課題と向き合い、地域の福祉の要としてたゆまぬ努力を重ね、国民の福祉の向上と発展のために貢献してまいりました。

私たち民生委員・児童委員は、いつの世にあっても常に人の持つ温かさと奉仕の光を地域に届け、それぞれの時代の中で福祉を切り開いています。そして現在、認知症高齢者や障害のある人の消費者トラブル防止のための取り組み等を進めています。さらに、制度創設90周年記念事業の一環である「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」の推進等により、国民の誰もが安全に安心して暮らせるよう、地域の中で支え合い、助け合うコミュニティを大きく育てゆく使命を持つ者として邁進しています。

今、私たち民生委員・児童委員は人権擁護の理念に立脚し、この地域で住み続けたいという住民の願いの実現に向けた地域福祉を創造するために、次の100周年に向け、「広げよう 地域に根ざした思いやり」行動宣言として次のことを明らかにします。

- 一、安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します
- 一、地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します
- 一、児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます
- 一、多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます
- 一、日頃の活動を活かし、災害時に要援護者の安否確認を行ないます

右、宣言します。

平成19年7月5日

民生委員制度創設90周年記念 全国民生委員児童委員大会

ひろば

ふれあいの心



熱海市民生委員児童委員協議会

小川 博

昨年10月に行われた第19回全国健康福祉祭静岡大会(ねんりんピック静岡2006)が県下18市町を会場に、23種目のスポーツと文化の交流大会が開催されました。熱海においては卓球競技(ラージボール)が開催され、全国から65チーム(514名)が参加し、選手、監督を始め、多くの競技関係者が訪れました。

私たち民生委員・児童委員(延べ60名)は、4団体のボランティアの方々とともに2日間、お世話を担当しました。宿泊先のホテルからバスで20分の会場に到着すると、出迎えに始まり、各自担当別のプラカードを持ち、会場への誘導、競技開始後の荷物の確認、応援、昼食弁当の配付、サービスピ運びの手伝い、交流会場への案内、市内観光の説明など、休む間もない一日を終え、2日間にわたるお世話が終わりました。選手団との別れのあいさつやバスを見送り、多忙な一日が終わり、事故もなく、全員笑顔でお帰りになり、関係者一同ホッとすることを確認し、家路につきました。自分の担当した滋賀県チームの皆さん方は、今ごろ花火を見ているかなと考えたりしました。後日、一選手の方からお礼状をいただき、お世話した一刻を思い出しました。限られた時間での交流でしたが、思い出となる心温まる全国健康福祉大会でした。

有意義だった視察研修



御殿場市民生委員児童委員協議会

湯山 智与

御殿場市の主任児童委員は、市内の各地区24か所で民生委員や福祉委員と共に子育てサロンや児童健全育成活動(森っ子クラブ)を行っています。また、社会福祉施設において、子どもに関する相談業務を行っています。これらの活動を充実させるために毎月、定例会を開き、各地区での活動の報告や、活動を通しての問題点、疑問点等を話し合い、講師を招いての研修や視察研修を行っています。

昨年度の視察研修は「さつき学園」と「三方原学園」でした。

「さつき学園」は、全国に4か所ある自閉症者援助施設の一つで、御殿場市内にあります。利用者も支援者も「安心・安全・安定」をキーワードに利用者に安心できる人間関係、生活環境、支援体制を作っています。利用者が熱心なお話を伺いました。

「三方原学園」では、子どもたちと寝食を共にしている先生のお話を伺い、子どもたちの明るく元気なあいさつと広大な敷地の中にある野菜畑や美しい花壇を見て、とても家庭的な温かさを感じました。

施設本来の在り方や職員の方々の御苦労を肌で感じる事ができ、有意義な視察研修となりました。

異体同心の民生委員・児童委員活動



由比町民生委員児童委員協議会

望月 良英

民生委員・児童委員を委嘱された時、私は、早速制度の淵源を尋ね、大正6年の岡山県笠井知事(富士市出身)による「濟世顧問制度」、翌7年の大阪府の「方面委員制度」がその濫觴であることを知りました。ことに秋の暮、淀屋橋で子どもを背負い夕刊を売る母子の姿に御自身の幼年時代を偲ばれ、「方面委員制度」を創設された大阪府林知事の「人間愛、隣人愛」に強く心を打たれました。

このような立派な日本人の精神が脈々と今に継承されていることは誠にすばらしいことであり、思い出されたのが「神仏は人の口借り意思語る」という言葉でした。

笠井信一翁、林市蔵先生の言行は、まさに神仏の御意思であり、その菩薩行の一端に加えていただくことは本当に有り難いことです。

私たちの活動でも、「老人会」では、自分の親と同時代を生きた人たちと会話が弾み、「ひとり暮らしの集い」では、お年寄りや幼稚園児の美しい交流が見られます。毎年8月の「ふれあい祭り」では、町内の老若男女が社協の広場に所狭しと集まり、研修旅行を契機に「『ゆい』方言辞典」ができました。

目下、「災害時一人も見逃さない運動」の「要援護者マップ」を作成中です。これからは諸先輩の「仁愛・報恩の精神」に学び、委員同士、異体同心(身体は別々でも心は一つ)、同じ目標に向けて相互啓発に努めたいと思います。

ぬくもりとふれあい



川根本町民生委員児童委員協議会

山本 巨一

小さな町の小さな合併、高齢化率県下一になりましたが、法定民児協はひとつに。目標は「お互いに理解し深め合う、限りなくひとつに融合を」。そして一年半、すべての活動運営を12月改選期に合わせて配慮し、スムーズな移行ができるよう努めてまいりました。小さな町ならではの行政、社協、民児協と地域とのコラボレーション活動を展開し、いきいきサロン、親子ふれあい交流会、障害児者とのグラウンドゴルフ大会、町の健康まつりや奥大井ふるさとまつり等に参加し、喜びの声を励みに、民児協名入れの赤帽の出番が多くなりました。

今年度、地域のつながりで安全安心をつくる「見守り安心ネットワーク」を立ち上げました。様々な立場の方が関わり、住民同士が支え合い、助け合う仕組みづくりを進めております。今や先を見ようとしても、不透明でむずかしい時代です。「振り向けば未来」。山村古来よりのぬくもりのある風土の再生を踏査し、声掛け、生きがいさがし、つながりを大切に、関係機関や地域との協働によって、それぞれの集落の活性化を図り、安心して暮らせるふるさとづくり、新生民児協は取り組んでまいりたいと思っております。

自然の恐ろしさ

袋井市民生委員児童委員協議会

諸井地区民生委員(匿名希望)

2月14日午後6時15分、突然の停電で諸井地区約900世帯が真っ暗になりました。復帰するまで不安で、とても長く感じました。ちょうどその日は地区内のお宅へ午後7時に通夜へ出掛け、同地区内が突風に見舞われ、かなりの被害を受けたことを知り、びっくりしました。風の通り道で被害を受けた方々の中に委員宅が含まれていることを知り、二重のびっくりでした。ただちに委員の一人が自治会長と共に高齢者及び高齢者一人世帯等の生活弱者の方々を見回りました。一世帯が窓ガラスの損壊、一世帯の屋根瓦が多少破壊、他は被害を受けていないことがわかり、民生委員としてひとまず安堵しました。

また、自治会では、公会堂にただちに対策本部を設置し、住民の対応に当たってくれました。翌日には袋井市が現地対策本部を設置し、自治会と共に住民の不安軽減に取り組んでくれました。ただ応急の片付けをしても、後になって廃棄するものがたくさん出てきます。市が設置してくれたコンテナは早々に撤収されたため、個人でクリーンセンターへ運ばなくてはならなくなりました。片付くまでは、コンテナを置いておいてほしいのではないのでしょうか。いつ起こるかかわからない災害、コミュニケーションを大切に民生委員として努力したいと思えます。

民生委員・児童委員活動の中で



森町民生委員児童委員協議会

横井 みよ子

公務員生活を終えて一年経過後、民生委員・児童委員をお受けして早12年、4期目を終ろうとしています。長年公務員として勤めたので、退職後は地域のお役に立てればと一念で、このお仕事をお受けしました。当初は何もわからず、当惑したことも何度ありました。会長さんや先輩の方々に御指導をいただき、仕事の奥深さを勉強しながら、今日まで何とか務めてまいりました。自分なりに「でしゃばらず自分のできることを」の信念を持って、弱者への対応や地域の人たちとの信頼関係も深まりました。

そんな中で、一昨年の9月から担当町内会に老人サロン風「おたっしや会」を立ち上げました。とかくお年寄の居場所云々と言われている中、地域福祉の一助になればとボランティア仲間と立ち上げ、現在、順調に進んでいます。75歳以上、65歳以上のひとり暮らしが対象で、月1回の集まりは毎回90%以上の参加です。皆さん、とても楽しみにしてくれており、やりがいがあります。ワンコイン(五百円)を持参し、手作りの内容、昼食、おやつ、歓談に終始にこやかに過ごしてくれます。町内会長さんや地域の方々の御理解のもとで有意義に進めています。私自身、念願だった「おたっしや会」の立ち上げは、この上ない喜びです。これからも力の続く限り、続けていきます。

平成19年度(第67回) 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会発表要旨 「児童虐待の防止と児童委員活動の推進について」

静岡県民生委員児童委員協議会 常任理事 中西 武子

富士市は、静岡県東部に位置し、北に富士山、南には駿河湾を望む岳南工業地帯であり、昨年は市制40周年を迎えました。21の単位民児協があり、民生委員定数は319名、主任児童委員定数は42名です。また、民生委員制度の生みの親である笠井信一先生の出身地です。富士市における児童虐待防止のための取り組みについて、報告いたします。

1 要保護児童対策地域協議会

平成18年に設置され、17名の構成メンバーは富士市行政、小中学校、保育所、警察署、医師会などであり、民生委員児童委員協議会も参画しています。所掌事項は、①要保護児童の適切な保護を図るための必要な情報交換

②要保護児童とその保護者に対する支援の内容に関する協議③児童虐待防止、要保護児童に関する啓発広報活動④要保護児童に対する対策等活動内容に関する協議です。

2 学習の場

児童虐待防止研修会へ参加し、具体的な事例を挙げた講義を聴講したり、児童虐待への関わり方(虐待通報の対応、導入、介入、解決)、関係

機関との連携について、学習します。自分たちの勉強会として、市民児協の児童福祉部会、主任児童委員部会において前記の研修内容について再考し、意見交換などを行います。そして、地区定例会において、部会発表を行い、全員で協議します。児童虐待の導入から解決まで、いかに迅速かつ慎重を期すべきかを再認識する場となっています。

3 虐待防止啓蒙活動

富士市が市民に対する啓発活動として実施します。民生委員・児童委員は、保護司、学校関係者、市児童福祉課やその他の団体とともに、市内数箇所にてキャンペーン、ピラ配りなどを行います。

4 早期発見・早期対応

市家庭児童相談室の家庭相談員2名と連携し、情報交換や虐待が疑われるときは調査を家庭相談員に依頼し、民生委員・児童委員のサポートが必要であれば、介入します。情報源は学校関係や施設、病院、警察、そして一般市民です。児童虐待の対応は、小さなことでも見逃さず、速やかに通報し、対応を進めていくことが最重要です。

5 事例

両親、子ども4人の家庭の事例があります。不登校、ネグレクトの疑いがあり、最初は主任児童委員や民生委員が訪問しても門前払いでしたが、食事をお届けしたり、小学校の校長先生や担任の先生と連携を図り、家庭訪問を続けるなどしたところ、家族との接点ができ、次第に心を開いてくれるようになりました。こちらの熱意が伝わったのだと思います。

長男の中学校入学にも民生委員が支援し、今では、この長男が兄弟の力になろうとリーダーシップを取り、家族で頑張っていること目を輝かせています。母親も、この長男の姿勢に感化されつつあります。

6 まとめ

- (1) 子どもは、「地域の子ども」
 - (2) 児童虐待は、対応が遅れないこと
 - (3) 問題のある家庭と親の「成育歴」
 - (4) 該当する家庭への思いやりを忘れずに
 - (5) 個人情報への配慮、守秘義務
- これらの5つのことを心にとどめ、関係者と連携を密にし、今後も活動してまいります。

電話による「相談窓口案内」

日常生活上の複雑多岐にわたる問題に相談員が、適切な専門相談窓口を紹介いたします。
受付/平日の午前八時三〇分〜午後八時
電話/〇五四-二三二-二三九二(ふじのくに担当/静岡県民部県民のこえ室)

編集後記

うつとうしい梅雨の長雨ですが、雨にぬれる紫陽花の紫は梅雨にはよく似合い、初夏を彩る風情が感じられます。それにしても、この号が皆様のお手元に届く頃には、初秋の候になっています。楽しいながら、世のうつろいの速さと季節感とのギャップにとまどいを覚えていきます。

世の編集者の皆様は、季節感をどのように克服されているのでしょうか。加齢とともに物忘れが激しくなり、「物忘れが増えたら要注意」と言われる年代に差し掛かっています。ただの物忘れで済むのなら歳のせいだとあきらめてしまうこともできますが、もしかしてこのまま・・・と思うと一瞬ですが「ヒヤリ」としてしまいます。

しかし、脳細胞は使えば使うほど活性化してくるそうですから、いろいろなものに積極的に挑戦してみたいかがでしょうか。問もなく一斉改選期です。それぞれに様々な道を歩まれると思います。どこにいても、常に新しい挑戦を試みて、いつまでも「若さ」を保ちたいものです。(大)